

9グループ

2050年に生き残る大学になるために

2024.10.22

目次

1.2050年の動向

2.背景

3.将来に向けてどう変わっていくか

4.具体的な解決策

5.データ活用でこんなことができる！

2050年の動向

18歳人口（推計）

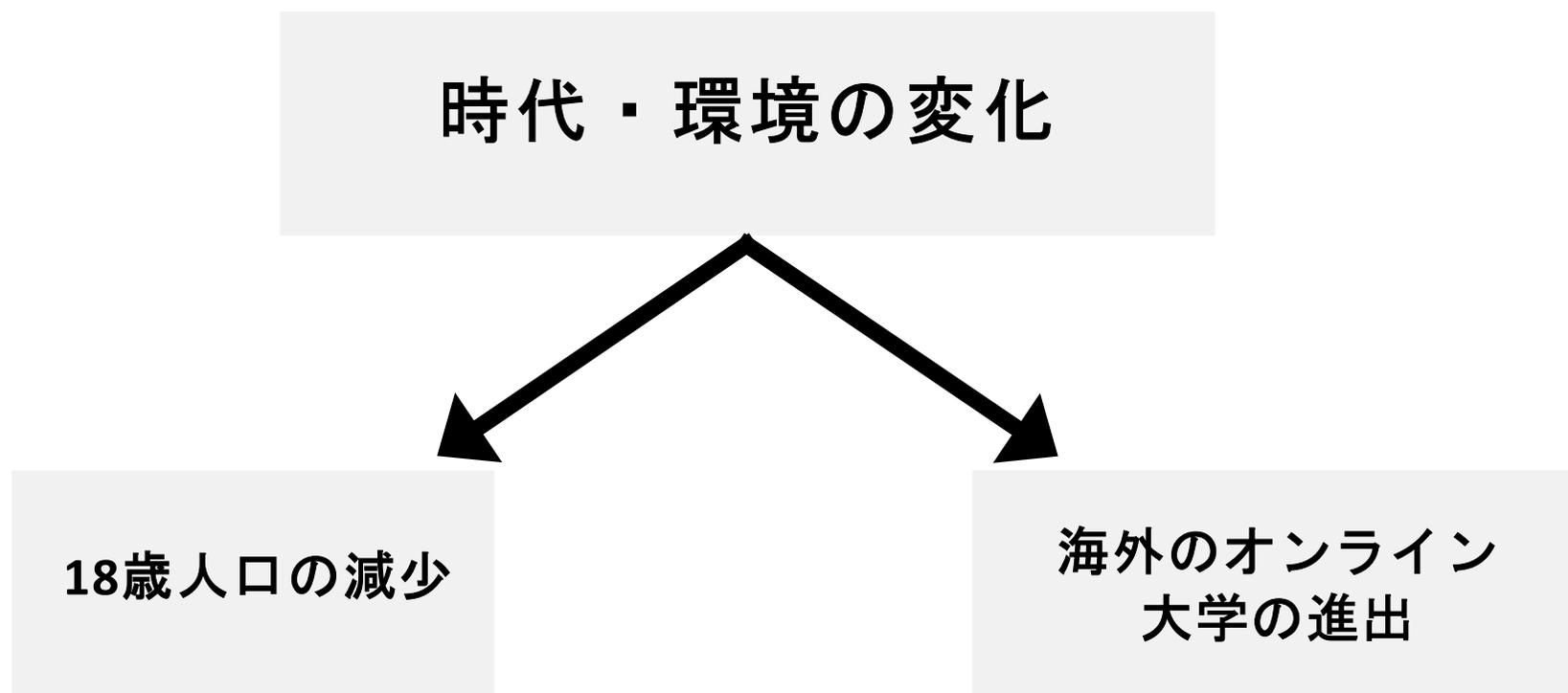
2030年：100.8万人

28%減少

2050年：72.5万人

背景

時代の変化により今のままでは生き残れない大学が出てくる



将来に向けてどう変わっていくか

大学規模を縮小する？

学費収入に頼らない大学運営？

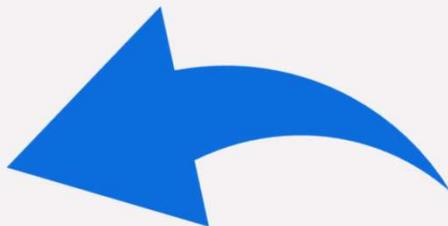
- 短期プログラムや企業向けの授業

大学業務の効率化？

志願者数の増加

学生支援の質

教職員の業務の質



質向上を妨げているもの

労力

一人当たりの業務量の
限界・人手不足

時間

業務時間の制限・
問い合わせ対応

事務職員が推進すること

01



学生一人ひとりに
AIが最適な
学習方法を提供

02



教職員の業務に
AIを活用する

03



各データ統合する
ことで業務を
効率化する

AIを教育・事務へ活用

学生一人ひとりを AIがサポート

- ・AIが学生一人ひとりの学習レベル、得意・苦手な単元に合わせて適切な教材を選んで提供

教職員の業務も AIがサポート

- ・公式LINE
- ・チャットボットの導入

A cup of coffee on a saucer next to a laptop keyboard. The background is dark and moody, with the coffee cup and laptop keyboard being the main focus. The text is overlaid on this background.

AIを活用するためのデータ準備

データベースの統合
データレイクへ必要なデータの統合

⇒AIが効率よくデータを活用できるようになる

データ共有できたら こんなことができる



- ① 広報活動
- ② 入学前
- ③ 学生生活
- ④ キャリア支援
- ⑤ 卒業後



入学前

- ・ 広報活動の強化
→ターゲットに応じたアプローチ
- ・ 入学前教育プログラム
(eラーニング)
→入学前から学生の様子を把握

在学中

- ・ 学生カルテ
→適切なサポートを提供
- ・ ポートフォリオ
→在学中の出来事を記録し就活に活用
- ・ 退学者データ分析 (BIツール)
→退学防止
- ・ 授業アンケート (オンライン実施)
→学修成果の可視化・個別フィードバック
- ・ 業務の効率化
→業務負担軽減 = 質向上

卒業

- ・ 学生のキャリア支援の強化
→適切なサポートを提供
- ・ 卒業生アンケート
→翌年以降の広報活動へ活用

データ共有

=

意思共有



2050

サバイバル



生き残るのは誰だ